

# 寺報

# 傘かえで

No. 15

発行 遍照山慈光寺  
又慈市大川目町22  
Tel 55-2660  
編集 永七  
田表

## 禪と念仏の立場

# 生死を包むもの

### 念仏を称えて

### 極楽浄土に生まれる



むかし、ある禪宗の高名な坊さんが、信者から葬式を頼まれたので、弟子を連れてその家に行ったときのことです。

「いよいよ棺桶のふたを開いて、師僧が引道を渡さうとした時のことです。弟子がいきなり棺桶を押さえて、「これ死か、これ生か」と師に向いかけました。

弟子は、師に対して、「この人は死んでいるのか、それとも生きていますのか」と向うたわけでありました。考えてみると、「死んでいる者に引道を渡しても、聞く耳も悟る心もないんだ

しかし師僧は、「何としても言わじ」と言うばかりでした。

こうして棺桶の前で、師僧と弟子が禪問答を始めたものですから、一向に葬式が進行しません。困り果てた遺族の一人が、二人の中に割って入り、「禪問答は後にして、ともかく葬式を出してくれ」ということで、ようやく葬式が済みました。

その帰り道も、延々と同じ問答をくり返し続けたというのであります。

後年、生死を超える悟りを開いたこの弟子は、「お師匠さまのお気持ちが、今にしてようやく分かった。あの時に言っただけならなかつたお陰で、生死のまことの意味を悟ることができた」と言って、感謝したということでもあります。

### 念仏を称えて極楽浄土へ

わたしたち念仏の立場は、先の問答のようなことには関わずに、生死のことはすべて阿彌陀さまにお任せするところにあります。

阿彌陀さまの教えは、「念仏を称えて、私の国(極楽浄土)に生まれるんだと思いなさい」ということでもあります。

悟りの境界である極楽浄土は、「不生不滅(生ずることもなく滅することもない)

い)の涅槃の境界であるから、往生(往つて生まれる)といつても、その生は、死に対する生ではなく、「無生の生(生でない生)である。

しかし、生死にとらわれている凡夫には、無生の生といつてもなかなか分からないから、「生」とのみ言われたのであります。そこに、凡夫の立場まで降つて救おうとされる阿彌陀さまの大慈悲の深さと、巧みな救済手段の結晶があるのだと言われております。

### 涅槃の境涯に生き続ける

このように、「死ぬのではなくて、極楽浄土に生まれるのだ」ということは、亡くなられた方は、「生死を超え、愛憎の煩惱が寂滅した安らかな涅槃の境涯に生き続ける」と言うことになりま

す。ですから、私どもは、亡くなられた方のことを、「気の毒だ、かわいそうだ」とだけ思わずに、生き残った私どもは、悲しく寂しいけれども、「極楽浄土に生まれさせていただき、真実の安らぎを得ていらつしやるのだ」というように考へて行くように努めたいものです。

(慈光寺副住取 高谷 剋行)

# 本堂入口と回廊の改修計画

## 年内実施の方向で検討中

かねてから話題となつておりました慈光寺本堂入口と本堂回廊の改修について、過日開かれた事務局会議で話し合われました。

それによりますと、本堂入口については階段の段差を縮め、勾配もゆるやかに改修すれば、子どもも、お年寄りも楽に参拝できること。更に、靴をぬいでから階段を上がるようにすれば一層便利で安全になることで意見の一致を見ました。

また、本堂回廊については、一部老朽化も進んでおり、この際、階段改修と併せて改修すれば、屋根との釣り合いもとれるし、内ばきで出られる回廊となれば利用の巾も広まるという認識で一致しました。

これは、近く整備委員会(委員長米内肇氏)にはかつて正式に決定されるよう手続きを踏むことになりました。

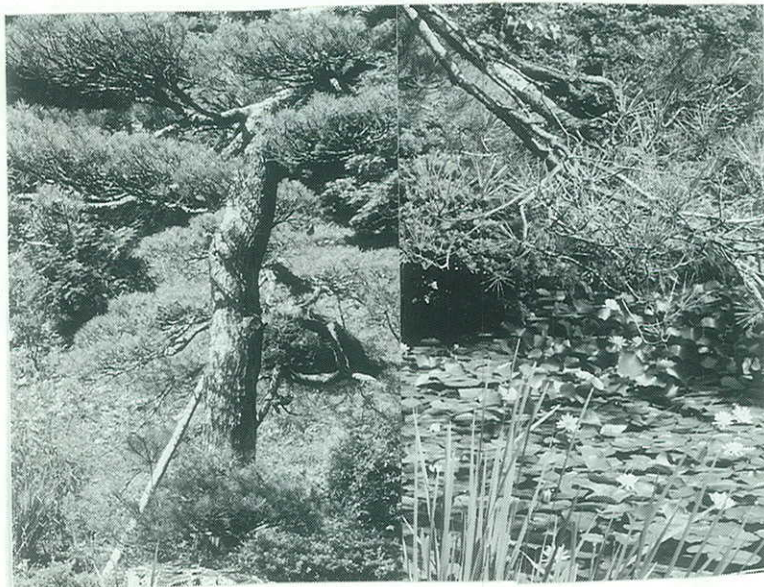
### 慈光寺百景 8

#### 裏庭の池

#### 老松と水蓮

慈光寺裏庭は、周囲をつつさうとした大木に包まれて、実に静かである。ふだん訪れる人は、ほとんどない。庭の中ほどにある池は、二本の老松の影を写し、鏡のようである。

池面に浮く水蓮が、淡い桃色をにじませて救輪の花を開き優雅である。



### 披露ご進寄

庭木

#### アカマツの大木

慈光寺境内の鐘樓前に、みごとなアカマツの大木が、植えられ、前庭の植込みが一段と厚味を加えました。

アカマツの寄進者 眞角松男  
植栽作業 山口建設

#### 法衣 二一領(着)

大川目町砂子 宮澤久美子

### 秋の彼岸法要の

#### ご案内

慈光寺恒例の彼岸祭(法要)は、今秋もまた盛大に行われます。多数のご参加をお待ちしております。

日時 9月23日(水)

受付 正午から

開会 午後1時

会場 慈光寺本堂

会費 500円

### 檀家研修旅行

#### 宮城県内一泊で

恒例となつている慈光寺の檀家研修旅行の計画は、目下作成中ですが、その骨子はほぼ次のようです。

1. 時期 9月下旬～10月上旬
  2. 行先 仙台市 阿彌陀寺 白石市 常林寺
  3. 宿泊 鎌先温泉(宮城蔵王)
  4. 定員 40名
  5. 経費 約二五、〇〇〇円
- 追つて確定したい案内文書を配布します。

### お願い

お盆中の

#### お墓への供物は

#### 各自持ち帰り

#### ください

お盆が終わった後の墓地は、カラス等が供物を散乱させて、悪臭を放つなど大変な状況となります。

どうぞ、最終日には、各自で供物をまとめてお持ち帰りになるようご協力をお願いします。